

「主体的な学習」のための 授業づくりチェックシートを使う前に

授業づくりチェックシートは、子どもの学びが「主体的な学習」となるべく授業改善のための視点の提案を行うものです。先生方が授業を構想したり、振り返ったりする際に活用し、授業改善に役立ててもらうことを目的として作成しました。また、具体的な子どもの姿や授業改善のポイントをイメージしやすいようにチェック項目や「授業改善のヒントの一例」を示しています。チェックシートに挙げた子どもの取組の姿はあくまでも例示であり、「主体的な学習」をする子どもの姿の全てではありません。また、汎用性を高めるために、校種や教科を限定していません。子どもの実態や教科に合わせて、チェック項目を追加・加工・重点化してお使いください。

本チェックシートが各学校や先生方のお役に立ち、更なる授業改善の推進につながることを期待しています。 (平成 29 年 3 月)

使い方はチェックシートの裏表紙をご覧ください。



「主体的な学習」を目指して

学んだことが、真に実生活や社会で生きて働く学力として定着するために、子どもの主体的に学ぼうとする姿勢が不可欠です。

主体性を「好奇心」「方向付け」「積極的な行動」「決定力」「自己表現」の要素に分類し、加えて授業での学びの過程に沿った「学習課題」「学習過程」「学習評価」という項目で、主体的に学習する子どもの姿を引き出すための取組を整理しました。下表には(1)～(16)の取組とその趣旨を示しています。チェックシートでは、それぞれの取組をさらに具体化し、チェック項目①～⑯として示しています。

取組どうしが大きく関連しあっています

取組やチェックシートのチェック項目を見ていくと、重複しているように感じるかもしれませんが、取組どうし・チェック項目どうしには、育む資質・能力やそこで表出させたい思考の違い、習得・活用・探究という学びの過程の中での学びの深さの違いがあります。取組がそれぞれつながり、前の活動を踏まえて次に向かうといったスパイラルの形成の中で学びが深まり、また、主体的な学習を行う姿もより高まっていきます。

例えば……

取組どうしの関連

取組(12)は次の学習活動への疑問や意欲につながるように工夫した評価の場面を捉えています。これが(4)のような新たな学習の課題となり、それを解決する(7)や(10)などの学習過程をたどっていくことで、子どもの学びが深まります。

チェック項目どうしの違い

チェック項目⑳と㉑は、ともに、子どもに課題解決のゴールについてイメージさせています。㉑はゴールを教師が与えるのではなく子ども自身が粘り強く思考する活動の設定を、㉑はゴールまでの過程の到達目標を子どもたち自身が設定することを示しています。

要素	項目	学習課題	学習過程	学習評価
好奇心 (自らが関心を 持っていることを やってみる)	方向付け (自分の中の 方向性を持つ)	単元(題材)や授業の始めに設定される学習課題は、それ以降の学習における子どもの主体性を左右する大きな要因になります	子どもが「学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」学びの実現が求められています	「子どもが進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった学習に関する自己調整」の側面の評価が求められています
		(1) 子どもの興味・関心を生かした学習課題を設定する	(6) 子どもの興味・関心を生かした自主的・自発的な学習活動を設定する	(12) 子どもが新たな疑問や興味・関心を持つことができるよう工夫した評価を行う
積極的な行動 (自らが主体となって 積極性を強調する)	決定力 (自分が決める)	日常生活との関連や、既習の知識や経験と教材との矛盾を活用すること、解決への必要感、学習対象への期待感を持たせること等の方法が考えられます。	既習事項を生かしたり、スモールステップを踏んだりすることで、ねらいを達成できるなど、子どもが自分で解決できる学習過程を設定します。途中で迷うことなく学習活動するために、課題のゴールをどのように設定するのか、どうなっていたら課題が解決したといえるのかを子どもが明確にイメージできるようにします。	学んだことの意味や価値を自覚できるよう、自らの学習を振り返る時間を設定します。その中で新たに生まれた興味・関心や疑問を意識化したり、新たな学習課題を作ったりする学習活動を設定することで、子どもの主体的な学びはスパイラルに続くこととなります。
		(2) 子どもが自分で方向性を持ち、学びたいと思えるような学習課題を設定する	(7) 学習の方向性を明らかにしたり、学習したことを振り返ったりする学習活動を設定する	(13) 子どもが自らの活動を点検・確認し、改善・調整できるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)	自己表現 (自分を表現する)	学んでいることがどのように社会とつながっているか、また、現在・将来の自分とどのようにつながっているかを意識させることで、課題を自分のこととして考えるようになり、より主体的に学習すると考えられます。	子どもが本時のねらいを理解するための手立てを教師が持って授業に臨むことが大切です。解決への見通しを明らかにし、各教科等の見方・考え方を意識して学習活動を俯瞰し、子どもが自分で学習の過程や結果を見直す活動や振り返る活動を設定します。	子どもが学習の途中で自分の学習の進め方を点検・確認、改善・調整する振り返りをしたり、自分の学びや変容を見取って自分の学びを自覚する振り返りをする自己評価を設定することは、次の学びへの目標が定まり、意欲を高めることにつながります。
		(3) 様々な知識・技能を総合して使いこなす(活用する)ことで学習が深まるような学習課題を設定する	(8) 対象と直接関わる学習活動を設定する	(14) 子どもの意志的な側面を捉えるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)	自己表現 (自分を表現する)	課題解決の見通しを明らかにしたり、自力解決を可能にしたりするために、それまでに獲得した知識や技能、経験を活用する必要がある課題を設定します。また、個性を生かして自分の考えを表現する課題を設定します。	直接対象と係わる体験的な学習では、実際の生活で生かす場面や、観察・実験・調査等の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりする場面を設定します。その時は、子どもが目的を自覚して活動できるようにします。	学習を振り返ったり、見直したりしながら、試行錯誤を繰り返して粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしていたりしている姿を評価することが大切です。子どもの思考の過程を見取るためにノートやワークシート等の工夫が必要になります。
		(4) 子どもの興味・関心やこれまでの学習の振り返りをもとに子どもが自分で学習課題を設定する	(9) 対象と間接的に関わる学習活動を設定する	(15) 子どもが自らの活動の内容や結果から目標の達成度を評価できるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)	自己表現 (自分を表現する)	自然の事物・現象や社会の問題、自分の課題から問題を見出し、自分の意思で学習課題を設定したり、これまでの学習の振り返りから自分が探究したい学習課題を自ら設定したりします。	自分の課題を解決するためや、学習の途中で学習の方向性を見直して自分の考えを深めたり広めたりするために、学校図書館や情報通信ネットワーク等を活用する学習活動を設定します。その時は、子どもが目的を自覚して活動できることが大切です。	学習を振り返ったり、見直したりしながら、試行錯誤を繰り返して粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしていたりしている姿を評価することが大切です。子どもの思考の過程を見取るためにノートやワークシート等の工夫が必要になります。
		(5) 子どもが獲得した学習内容を整理し、表現するための学習課題を設定する	(10) 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自ら課題を解決する問題解決的な学習活動を設定する	(16) 子どもが知識・技能を総合して使いこなしているかどうかを見取ることができるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)	自己表現 (自分を表現する)	単元(題材)や授業の最後に学んだ内容を様々な方法で他者に伝える活動を設定する時に、自分に合った適切な学習方法や表現手段を自ら選択したり、子どもに表現活動(書く、話す、まとめる、図に表す等)の目的を明確に持たせたりします。	身の回りの事物・現象に接する中で得た気付きから疑問をつくり、問題を解決するような学習活動を設定します。その時は、具体的な知識を総合して、収集した情報を比較したり、分類したり、因果関係を捉えたりする等の視点を示し、子どもの思考する活動を促すことが大切です。	自分自身への気付きや、自らの成長が自覚でき、自分は更に成長していけるという期待や意欲を高めるような振り返りをします。その時は、課題に合わせて、自分で学習過程を振り返り、自分の振り返りを意味付けしたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したりできるような他者評価や相互評価を行う振り返りが有効です。
		(11) 他者との対話を通して自らの考えを明確にし、自らを表現し、互いの考えを共有する学習活動を設定する	(11) 他者との対話を通して自らの考えを明確にし、自らを表現し、互いの考えを共有する学習活動を設定する	(16) 子どもが知識・技能を総合して使いこなしているかどうかを見取ることができるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)	自己表現 (自分を表現する)		ペアやグループ、全体の場などで、他者の意見を聞いて、自分の意見と比較したり、練り直したり、互いの考えからよりよい考えを作ったりする話し合いの場を設定します。	パフォーマンス評価等のように、子どもが知識・技能を総合して自己表現した結果を形にする学習評価を設定します。他者に伝える活動を取り入れ、他者からの評価を踏まえ、新たなパフォーマンスに生かすような評価をします。

詳しくは島根県教育センターHPより

平成 28 年度研究紀要

『「主体的な学習」の在り方を見直す一研究』
をご覧ください

